

## 自著紹介

### 英語学演義 葛西清蔵著(新現代工学社 2003.4)



本書は、札大出身の英語教師を対象に、昭和59年(1984年)から18回にわたって開いた「英語教育研究会」にもとづいたものである。この目的は、英語学でわかった知見を現場の教師がかかえている問題の解決に役立てたい、ということであった。

いわゆる「学校文法」では、多くの規

則が脈絡なくならべられており、生徒は「どうしてそうなるのか?」という疑問も許さず、暗記することを強いられる。しかし、実は、そのような素朴な疑問の中に最も興味深い、ことばの本質にかかわることが含まれていることが多い。たとえば、不定詞に、なぜtoがついたり、つかなかったりするのか、can mayなどは、どうしてつながることができないのか、などである。これら横糸になって、一見無関係にみえていた規則がたがいにつながりあっていることがわかるようになっていく。また、日本語の「こと」、「もの」は英語ではどうなのか、などにもふれた。(835-Ka72)

### ハーバード流思考法で鍛える

#### グローバル・ネゴシエーション

御手洗昭治著(総合法令出版 2003.2)



グローバル時代の異文化との交渉の新しい潮流に焦点を当てた、画期的なユニークな一冊。交渉者の双方が満足を得るハーバード式交渉術を中心に、ミディエーションと呼ばれる調停、異文化の間の商談・ビジネス交渉、ジミー・カーター元大統領のミディエーション手法、テロとの交渉の紹介を

する。交渉ベタの日本人が、国家レベル、民間レベル双方で、国際舞台において活躍するために、ぜひ読んでほしい一冊(日本交渉学会会長、藤田 忠)。

本書の構成は、以下の章から成り立っている。「序章」の「21世紀の戦略ダイナミズムとサバイバル・キットとしての問題解決型交渉」から始まり、第一章では「交渉下手で理解されない国、日本」、第二章「交渉とは何か」、第三章「ハーバード式交渉力とは」、第四章「交渉は雄弁に文化を語る」、第

五章「異文化ビジネス交渉の向上法」、第六章「ミディエーションによる国際紛争解決の例」、第七章「テロとの交渉」プラス「実践応用付録」まで、幅広いジャンルをカバーしている。

例えば、多文化・異文化関係の事柄に興味を持つ人にとっては、第三章から第五章は是非読んでほしい個所である。異文化間の商談では、中国・韓国からはじまり、ロシアや東欧・北欧ヨーロッパ、南・北アメリカ、中東、東南アジア、オセアニアなど、世界の主要国の国民性やビジネス慣習が分かり易く紹介されている。これらは、おもしろくためになる。加えて第六章の「カーター元米国大統領のミディエーション技法」も異文化との紛争解決手法を知る上で参考になる。

また最後の付録には、交渉者診断テストはじめ、ケース・スタディ(事例研究)やシミュレーションなども含まれており、読者自らが参加できる実践的なキットである。(なお、本書は、多文化関係学会、日本交渉学会、TOEIC協会発行の季刊誌GLOBAL MANAGER(平成15年5月号)、北海道新聞などのブック・レビューでも紹介されている。)

(361.4-MI59)

## 貸出図書BEST 10 文学

1

ハリー・ポッターと秘密の部屋 J.K.ローリング作/松岡佑子訳  
静山社 2000(933||R78)

2

ハリー・ポッターと炎のゴブレット上・下 J.K.ローリング作/松岡佑子訳  
静山社 2002(933||R78||1・2)

3

ハリー・ポッターと賢者の石 J.K.ローリング作/松岡佑子訳  
静山社 1999(933||R78)

4

ハリー・ポッターとアズカバンの囚人 J.K.ローリング作/松岡佑子訳  
静山社 2001(933||R78)

5

西の魔女が死んだ 梨木香歩著  
小学館 1996(913.6||N55)

6

落下する夕方 江國香織著  
角川書店 1996(913.6||E44)

7

理由 宮部みゆき著  
朝日新聞社 1998(913.6||Mi71)

8

さくらえび さくらももこ絵と文  
新潮社 2002(914.6||Sa46)

9

ノルウェイの森 村上春樹著  
講談社 1987(913.6||Mu43||1)

10

ラブゴーゴー 室井佑月著  
文春ネスコ/文藝春秋(発売)2000(914.6||Mu73)

(2002.4.1~2003.3.31の貸出データによる)